



しまつては記憶 いけなひ、記憶 —水を求められて—

展示期間 平成20年4月1日(火)～平成21年3月31日(火)

展示開場 国立広島原爆死没者追悼平和祈念館 情報展示コーナー

開館時間 3月～11月8:30～18:00(8月は8:30～19:00)／12月～2月8:30～17:00

原爆で重傷を負った被爆者は、周囲の人に「水をください」と求めました。ある人は水を与えると死んでしまうと思い、心を鬼にして与えませんでした。また、最後の願いを叶えてあげようと、水を与えた人もいました。どちらの判断も重傷の被爆者を思つてのことでした。しかし、水を飲んだ人も、飲まなかつた人も、多くの重傷者はまもなく亡くなってしまいました。水を与えた人、与えなかつた人のどちらにも、その時の対応を今でも後悔している人がいます。被爆者から水を求められた時の様子が書かれた体験記を通して、難しい判断を迫られた人々の苦悩をお伝えしたいと考えています。被爆者の「こころ」と「ことば」にふれてください。

入場
無料

あれから五十年経った今も私の耳に焼き付いて離れない女学生の声が聞こえて来ます。

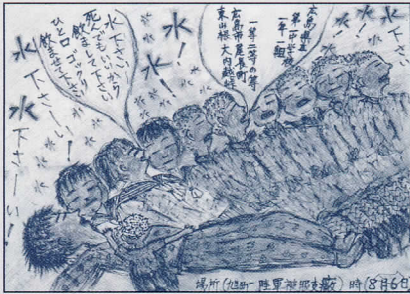
「死んでもいいから飲ませて下さい！一トロコックリ飲ませて下さい」

動員学徒にかり出され、全身焼けただれた山中高女（現広島女子大〔広島大学附属福山中・高等学校〕）一年生の少女の息絶えだえの中でのふりしぼる様な声です。

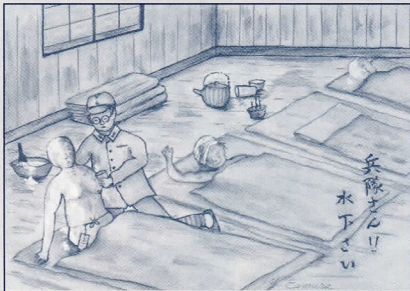
（死んでもいいから、一トロコックリ）この言葉。どんなに水が飲みたかったか！思い出すたびに私の胸は張り裂ける様です。手を合わせ少女に詫げるのです。

俄か救護所となった被服廠のレンガ倉庫に轟く負傷者の方々の「水！水！水下さい！」と叫ぶ声がわんわんとレンガ倉庫に反響します。そんな中、「水を飲ませたら死ぬぞ！飲ませたらいけん！」と見習士官のするどい声が厳しい目が光ります。飲ませてあげる事が出来ません。看護に当たったみんなも可哀想に可哀想にと云い乍ら、どうする事も出来ませんでした。どうして飲ませてあげなかったか、と今でも悔やまれてなりません。

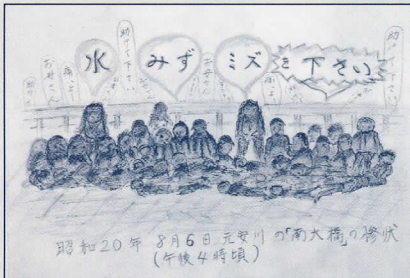
佐藤泰子さんの体験記より



佐藤泰子さんの描いた絵



江村良雄さんの描いた絵



原田義久さんの描いた絵

「すみませんが、水を一杯下さい」と云いました。私は、「水を吞ませたら死ぬから、吞ませてはいけない」と、云われていた事を思い出しました。

でも、少年の顔には、もう生きる力は残っていないように思えました。此の子の最後の頼みをきいてあげないわけにはいけません。私は台所に走り、コップ一杯の水を彼に渡したのです。

矢張り、少年はその水を一口飲んで、息が絶えました。私はふるえる手で、コップを握りしめ、もう我慢出来ませんでした。涙がもんぺの上に滴り落ちました。「お母さん」と、どんなに呼びたかったらうに。まだ、中学一年生。幼さの残る可愛い十三才です。学徒動員で建物疎開に狩り出され、先生とも友達ともはぐれて、やっと逃げのびた知らない病院で、たった一人で死ななければならなかった。「お母さん」とも呼べず、「助けて」とも云えずに。

もう絶対にこんな事は嫌だと思いました。

今井泰子さんの体験記より

【開館時間】

3月～11月……8:30～18:00(8月は～19:00)
12月～2月……8:30～17:00

【休館日】年末年始(12月29日～1月1日)

【入館料】無料

【交通案内】

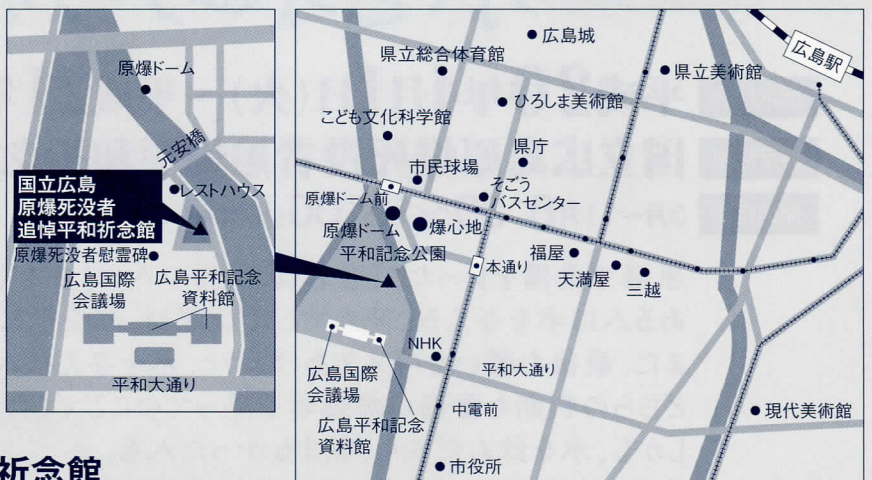
JR広島駅(南口)から(約20分)
・バス/広島バス吉島方面行で「平和記念公園」下車
・市内電車/紙屋町経由広島港(宇品)行で「本通り」下車
宮島口・江波行で「原爆ドーム前」下車

【お問い合わせ先】

国立広島原爆死没者追悼平和祈念館

〒730-0811 広島市中区中島町1番6号 TEL:082-543-6271 FAX:082-543-6273

ホームページ <http://www.hiro-tsuitokenenkan.go.jp/>



当館では、被爆体験記と原爆死没者の氏名・遺影を収集し、公開しています。企画展では、被爆体験記を中心に、当時の写真、関連する資料などを展示し、原爆被害の全体像に迫ります。被爆体験記や原爆死没者の氏名・遺影をお寄せください。ご遺族の皆様のご協力をお願いいたします。